

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	無題 : 文苑
Author(s)	花柴
Citation	龍南會雜誌, 117: 47-47
Issue date	1906
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5981
Right	

白

は

き

露

村

この夕君ふるさとに小琴ひかむよそほひすらし萩のしら露
せめてはと野路の小辻に君戀ひて歌ふによしや此の野秋の日
思ひせまりそゝろそのまゝ消れてむの心ともなる秋雨する夜
秋かぜに吹きやぶられし白菊の小枝いだかむ我にはあらじを
野にたてばたもと吹き上ぐる風冴へて知りぬ啓示の秋今來ぬと

○

花

柴

風吹けば千人黄金の扇して乱舞す秋を公孫樹のかげに
しかしながら釋迦無尼佛も基督も女人の御子と聞くがわびしき
あづま屋の十三弦にききとれて歌も歌はず歸りしといへ
ふと揺れし夢の行くを追ひわぶと虹につぶてを擲打ちて見し
朝顔のつばみにべにを食ませて我に贈らん詩歌はつゞれ
美しくしき胡蝶と魂はあくがれぬ夢よ枕の伊勢物語
うつしゑを焼けば煙のたゆたひに多恨の宵やまばろしのかげ
「わ」といひて驚かさんのわるだくみ憎くやも君が影法師かな
男郎花ばかり譽めつつ阿蘇へとて肥後路行かむは淋しきよ秋
昏睡のさまや硫黄の氣に酔ひて夢まだ醒めず阿蘇の山々